



第22号 2020年11月6日発行  
五ヶ瀬川の豊堤を守る会

台風10号で被災された

方々に心からお見舞いを申し上げます。一日も早く復旧されますよう心からご祈念申し上げます。

令和元年度は新しい年号を迎え、豊堤を守る会でも新しい事業を展開しようと呼度も話し合いを持ち「水辺の青空美術館」を開催することができました。これについては前回の会報で述べさせていたいただきました。

豊堤を有効利用して、保育

園、幼稚園、小学生、中学生、高校生、大学を含む一般の皆さんに「豊堤」の、「自分たちの街を自分たちで守る。お互いを思いやり助け合う心」を、

豊堤に触れることにより、幼い頃から実感してくればとの思いで実施いたしました。緑ヶ丘小学校、岡富小学校へも行き「豊で街を守った」お話をすることができました。子どもたちは、興味深く静か

# 青空美術館開催への「協力に感謝

に話を聞いてくれました。

青空美術館を開催すると、絵も会場の風景も素晴らしく、青空の下、川沿いに並んだ、市民の皆様が一生懸命描いた「豊大の大きさの故郷のべお」に関する絵画」を眺めながら歩くことができ、約2500名の市民の方々が見に来てくださいました。それらは、本号のカラー写真で感じてい

ただければ幸いです。

また、報道関係者がたくさん取り上げてくれた関係もあり、開催後、幾人かの方から作品集を作ってほしいとの要望を受けて、今回、作品集を作成しました。

作品集は、皆様の描いた一枚の絵をいつまでも大切に思い出しとして残しておきたいと、何度も何度も推敲を重ね、やっと完成させることができました。そしてご覧いただいた多くの方に購入していただきました。

そのご協力のおかげで今年も「水辺の青空美術館」を継続できました。この事業は、次の関係機関の方々のご支援ご協力をいただいでて成立しております。

国土交通省延岡河川国道事務所、宮崎県延岡土木事務所、延岡市消防本部、延岡市都市建設部土木課、延岡市教育委員会、伊東通信特機、山崎産

げます。有難うございます。

昨年は、4月からフル回転で活動しましたが、今年の令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの行事が中止となり活動できませんでした。そのうえ、外出制限、マスク着用、手洗い、うがいと毎日続き、会合や、準備が自粛となりました。

ようやく私たちが活動を開始できたのは9月でした。市民ボランティア団体としては大変厳しい状況に追い込まれた今年にあきらめた方がよいのではという意見もありました。が、続けることに意義があるのではとの思いから何とか実施することができました。

市民の皆様が「水辺の青空美術館」に足を運んでくださることを切に願っております。今後とも「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」の活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年10月22日

会長 木原 万里子



一般の部優秀賞の片寄未砂子さん（右から2人目）と筆者。左は、近藤庸矢先生と共に審査員を務めてくださった延岡学園高校の伊東珠貴教諭



# 豊堤がギャラリーになった

## 初の「水辺の青空美術館」大好評

当会は、2019年11月1日から12月20日まで、板田橋南詰め（中央通）から、五ヶ瀬橋を挟んで須崎町まで360区間の豊堤で、「水辺の青空美術館」を行いました。

豊堤が現存する計980区間の堤防は、以前は人1人がやっと通れるほどの幅しかありませんでしたが、2014年から18年度末までに国交省が行った堤防の補強工事で、前述した360区間の天端が3倍幅に拡張され、非常時は水防車両も通れる防災道路、普段は豊堤を見ながら安全に歩ける散策路となりました。

ここに絵を展示し、市民の方々に見に来てもらうことで、豊堤の存在や構造を知ってもらおうというのが「水辺の青空美術館」の目的です。市内在住の画家近藤庸矢さんに見本を描いていただき、テーマを「ふるさと延岡」と決めて、作品を公募しました。

屋外展ですので、絵の具は、雨にぬれても流れないイベント

トカラー6色を当会から提供し、同じく当会から提供した平板（縦180センチ、横90センチ）に描いてもらいました。

保育園から一般まで6部門に計77点の応募がありました。内訳は▽保育園 14点▽幼稚園 3点▽小学生 21点▽中学生 11点▽高校生 13点▽一般 15点です。

参加費は無料で、部門ごとに最優秀賞と優秀賞を選抜。11月23日に表彰式を行い、それぞれの作品写真の入ったオリジナル賞状（上田耕市副会長作）が、木原会長から手渡されました。また、全員に参加賞としてボールペンを進呈しました。

作品を展示するため豊堤に固定する作業は重労働でしたが、青空と五ヶ瀬川を背景に、絵が並んだ光景はとてすがすがしく、大変好評でした。

平板の受け渡しや展示後の作品の保管には、消防本部に多大なご支援をいただきました。感謝申し上げます。



水神様の前でオープニングのテープカット



ずらりと並んだ作品



近藤先生の作品(左)とお手本の2点を含め、計79点が並びました



「水辺の青空美術館」の表紙(右)と、中の見開きページ



## 作品集を発刊

「第1回水辺の青空美術館」に寄せられたすべての作品を収録した作品集を、今年2月に発刊しました。1作品ずつ単独で撮影したものを、見開きに4作品ずつ掲載。オープンセレモニーや表彰式の様子、テレビ取材を受けた時の写真、入賞者に贈った賞状の写真、新聞記事なども収めました。A4判オールカラー、50頁。100部を作成。第2回美術館開催費用を捻出するため、1冊2000円で販売しました。



「畳堤に畳を入れる人物像」の塗り絵を楽しむ親子



畳堤の実物大模型の前で、ポーズ

## 延岡市防災フェスタに出展

### 紙芝居など好評、会員も勉強

第11回延岡市防災フェスタ（同実行委員会主催）が、令和元年11月17日、同市野地町の消防本部で開かれ、当会も例年通り出展しました。畳を出し入れできる畳堤の実物大模型、説明パネルなどを展示し、延岡の語り部「萌ぎの会」をお願いして、「畳でまちを守ったおはなし」の紙芝居などを行いました。多くの来場者が聞いてくださいました。

消防庁舎内では講演会が行われ、当会からも会員が数名受講しました。（受講すれば、給水袋などの防災グッズがもらえる、というのも魅力でした）

工学院大学客員教授の菅澤茂さん（左写真）が「地域防災と文化財」と題して講演しました。火災が起きれば、長い歴史を持つ貴重な文化財が、あつという間



に失われ  
てしまい  
ます。沖縄

の首里城の全焼が記憶に新しいところですが、私たちの地域にも、古いお寺や神社が多数あります。

ど自動消火システムの設置を検討する必要がある」と話しました。

菅澤さんは、「消防が来るのに5分、活動を始めるまでに10分かかる。20分では全焼してしまう。それに抵抗できるのは地域住民。初期消火で火勢を弱めることだ」と、当会の活動でも訴えている「共助」の重要性を強調しました。「消火器は、操作に一瞬戸惑うので、バケツ消火が一番いい」とのこと。古い建築物では、目に見える場所に、バケツに水を入れて常に置いておくのと良い。また、文化財に機械はそぐわないと思われるが、火災から守るためには、スプリンクラーな

会場では、非常持ち出し品セットの販売もあり、当会の会員も購入していました。防災について、再度認識を改めることのできた一日でした。

（編集後記）発行が遅れましたことをお詫びします。昨年の今ごろ、1年後がこんなことになっていると誰が予想したでしょうか。春夏はコロナ禍でイベントがことごとく中止になり、例年なら畳堤周辺の草取りをする県下一斉ボランティアや「橋の日」もありませんでした。市民が活動しなくなると、町全体が沈んでしまいますね。感染を予防しつつ活動することが求められています。

## 第2回水辺の青空美術館始まる

2020年度の事業として企画した2回目の美術館が11月1日から始まりました。場所は昨年と同じ。新たに集まった31点を加え、計110作品が並んでいます。12月20日までです。皆さん、見に行きましょう！